



シミュレーション教材 「ニッコリ駅周辺再開発計画」

はじめに

シミュレーション教材『ニッコリ駅周辺開発計画～まちづくりと政治参加～』を中心に、地域社会における相互依存関係について考えるものである。そして、さまざまな文化を持つ人々が共生する事が可能な社会を造り上げていく過程を、都市の開発からコミュニティづくりまでの流れの中でとらえながら、国際社会に生きる地球市民としての公民的資質の育成をはかるものである。そしてこの学習活動を通して生徒自身に主権者としての責任を自覚させ、その上で多文化共生社会の実現に積極的に参加できるよう考えを深めさせたい。

教材の使い方・参加のルール・アクティビティの解説

シミュレーション教材：開発教育協会 編集・発行(2012)『開発教育実践ハンドブック 参加型で世界を感じる 改訂版』によれば、シミュレーションとはある事象をモデル化し、単純化して、それを擬似的に体験することをいう。開発教育のなかでは、ある事象を擬似的に体験することで、問題を明らかにするとともに、学習者がそれを“実感”として認識するための有効な手段として、シミュレーションが使われている。

シミュレーション学習を実施する際に大切なことは、事前にその事象について正確に分析し把握するように指導することではない。そのシミュレーション学習が授業過程の中で整合性のある取り組みとして実施されているかどうか大切なのである。そしてその上で、そのシミュレーション教材が扱う内容が、何らかの形で生徒の経験や日常と重なり合う部分がなければ効果的なものにはならないと考える。

つまりシミュレーション教材が効果を発揮するには、生徒の身近な問題に題材を求めるか、一見生徒から遠く離れた問題（グローバル イシュー）を扱う場合でも、その中に共感できる内容を取り組みの中に織り込んでいくことが大切である。そしてその取り組みの中で生み出される「新たな発想」は次の「学び」へとつなげられていく。そのような「気づき・学び」と「新たな発想」の連続の中においてシミュレーション学習はより大きな効果を発揮するのである。

つまり、シミュレーション教材は、それをそのままの形で、脈絡もなく、目先の楽しさや目新しさを求めて安易に実践しても効果的な結果は得られない。目の前の生徒の日常に沿った形に作り直し、そこから得られた学びを次なる取り組みにつなげていく作業を繰り返す教師の工夫が何よりも大切だといえよう。

ロールプレイ：ロール プレイ（役割演技）というのは、実はかなり広い意味をもっており、例えば「ヒューマン・チェーン（人間知恵の輪）」のようなアクティビティも、ロール プレイの一つに数えられることもあるとされている。しかし、ここでは、開発教育の手法として通常使われている、狭い意味でのロールプレイとする。

「シミュレーション」がある事象をモデル化し、参加者がそれを擬似的に体験するものであるのに対し、ロールプレイでは、ある特定の（自分と違う）立場の人（場合によっては、動物やものの場合もある）になったつもりで、ある問題について考え、それを表現するということに特徴がある。防災訓練などで“起震車”に乗って地震の揺れを体験するというのは、シミュレーションであってロール プレイではないが、大地震で家を失い、仮設住宅に住んでいるお年寄りとその人を訪問介護するボランティアになったつもりで、二人で会話をしてみるというのは、一つのロール プレイである。また、立場が異なるもの（グループ）の間で討論を行うという点では、「ディベート」と共通する部分もあるが、ディベートが最終的に「勝つか負けるか」の決着をつけることを目指すのに対し、ロール プレイでは、それぞれの立場や考え方を受け止めた上での合意形成を目指すという点で大きく異なっている。

全体のねらい

本教材は、ある架空のまち（資料 1・2）を設定し、そのまちの駅周辺の再開発計画が地域社会に及ぼす影響を考え、住民によるコミュニティづくりを考えるまでの過程を(1)自らが望ましい都市開発を考える、(2) ニッコリ市の住民の立場に立って都市開発を考える、(3)市議会の疑似体験、(4)社会的ジレンマの解決方法を探る、(5)コミュニティづくりを考える、の5つの小単元に分けてシミュレートし、その後自らの気づきや学びを振り返るというものである。

ねらいとしては次の8つを設定する。

- ・ 開発がその地域にどのような影響を及ぼすかを考える。
- ・ 地域社会における相互依存関係についての認識を深める。
- ・ 議会の決定が、本当に民意を反映したものになっているかを考える。
- ・ 一票を投ずることの意味を考える。
- ・ 現実の社会において、どれほど社会正義が保障されているかについて考える。
- ・ 相互依存関係や異文化を理解することにとどまらず地球市民としての公民的資質を育てる。
- ・ 批判的な思考力を身につける。
- ・ 役割取得の過程を通して、社会的判断力を育成する。

学習計画（全5～6時間）

（1）シミュレーション教材「ニッコリ駅周辺再開発計画」

1. アクティビティ 1 『あなたの望む都市開発』
2. アクティビティ 2 『それぞれの立場で考えよう』
（※アクティビティ 1 『あなたの望む都市開発』とアクティビティ 2 『それぞれの立場で考えよう』は連続して実施する。）
3. アクティビティ 3 『トラブル発生』
4. アクティビティ 4 『コミュニティは誰のもの？』
5. アクティビティ 5 『ニッコリ市議会』
6. アクティビティ 6 『ふり返り』

教科・領域との関係

中学公民・公共・総合的な学習の時間・総合的な探究の時間等

アクティビティ 1 「あなたの望む都市開発」

●概要

この小単元では、ニッコリ市の環境・現状を理解したうえで、第三者的立場で駅周辺の再開発計画について考える。生徒自らはどのような都市開発が望ましいと考えているかを、都市開発に対する9つの視点に優先順位をつけていく（ダイヤモンドランキング）ことで明らかにする。

●ねらい

ダイヤモンドランキングを使って、合意形成を図ることで、生徒には具体的に視点が与えられ、普段あまり考えていない課題についても、明確に自らの考えをまとめることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

- ・資料①～③（P112～114）（全員分）
- ・資料④「ニコリ駅周辺再開発計画ワークシートⅠ」（P115）（全員分）

●所要時間要

45～50分

●用語の解説

ダイヤモンドランキング：ランキング（順位付け）は、開発教育の手法として、比較的良好に知られており、誰でも簡単に実践できるものであるとされている。ルールは簡単で、「地球の環境を守るためにできること」「途上国の貧困をなくすためにできること」など、ある課題について用意されたいくつかの選択肢を、良いと思うものから順に並べる。その過程で、参加者どうし意見を交換したり、または、個人でやってみた後で、他の参加者と比べながら議論するというものである。ランキングの結果を表すとき、ダイヤモンドのような形に並べるものを「ダイヤモンドランキング」という。（開発教育協議会 編集・発行『開発教育実践マニュアル わくわく開発教育 参加型学習へのヒント』より）

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 「ニコリ駅周辺地域再開発計画の説明」（資料1）と「この計画が実施されると起こる変化のプリント」（資料②）を全員に配付し、生徒は熟読する。</p> <p>2. 各自がこの再開発計画をどう見るかを確認するために、資料③と資料④「ニコリ駅周辺再開発ワークシートⅠ」を全員に配付し、資料③にあげた視点を各自でランキングを行い、その結果を資料④の「ニコリ駅周辺再開発ワークシートⅠ」の1）に記入する。</p> <p>この時、ワークシートに記載した内容はグループ内で共有することを予め生徒には伝えておく。（「ニコリ駅周辺再開発ワークシートⅠ」の2以降はアクティビティ2で使用する。）</p>	<p>自分はどのような視点でまちづくりを考えているのか、どのような価値観を持っているのかについて考える。</p>

{ニッコリ駅周辺地域再開発計画の説明}

ニッコリ市は人口90,000人程度の都心近郊の中規模のまちである。隣には大手の企業などもある市があり、そこまで働きに行く人もある。

歴史的には古く、昔からの地主が駅周辺の土地の多くを所有しており、食料雑貨店・衣類・薬品・食堂などの商店や中小企業のほとんどがその土地を借りて営まれている。ニッコリ駅周辺には地域に密着した製造業を営む中小企業が立ち並んでいる。

この駅周辺に住む住人のほとんどは、この周辺の中小企業や商店に勤め、この近くのアパートや公営住宅・賃貸住宅に住んでおり、持ち家に住む人はほとんどいない。商店の経営者がほんの少し、立ち退き地区で持ち家に住んでいる程度である。アパートの多くはひどく傷んでおり、駐車場のスペースもなく、子どもの遊べる公園もない。

まちにはゴミがあふれ、どぶ川は悪臭を放っている。また、賃貸住宅は昔ながらの長屋の風情を残している。

この地域には近年ブラジル人もたくさん住むようになってきており、近くの中小企業に勤めている。

公営のニッコリ住宅（規模は4棟）は家賃が安いため、入居希望者は多い。ニッコリ住宅に一度入居するとなかなか転居しないため、入居者は固定化され、ニッコリ住宅の人だけで自治会をつくり自分達の快適な住環境をつくろうと努力している。

山手と呼ばれる一角には一戸建ての住宅地『山の手 さくら台』があり、電車を利用して隣町の企業に勤める人々や中小企業や商店の経営者などが住んでいる。ここには児童公園やテニスコートもある。

今や円高のあおりで、一時期活況を呈していた中小企業の営業成績は落ち込み、以前のような利益をあげることができなくなってきた。借地料の値上げを考えていた地主達は、話し合いを続け、とうとう結論を出した。それは、ニッコリ駅前に大規模なショッピングセンター・マンション等を誘致し、新しいまちづくりをしようというものであった。この計画が完成すれば、約1,000世帯が収容できるマンション群ができ他の地域からもたくさん転居してくる。中小企業は山の上の新しい工業団地に移し、汚いアパートも取り壊され、市は活性化し、おしゃれなニュータウンに変身するだろう。

{この計画が実施されると起こる変化}

- 1) 今までのアパートの家賃は月額70,000円(3DK。駅のすぐ近くにある。日当たりはあまり良くない)。ニッコリ住宅の家賃は月額55,000円(3DK。日当たりはまあまあ)。取り壊されるのはアパート。新しい賃貸マンションの家賃は一番安いところでも90,000円ぐらいになりそう(3LDK。日当たり良好)。
- 2) 立ち退き地区の住人は、ニュータウンに新しく建設される賃貸マンションに優先的に住むことができる。数少ない立ち退き地区の持ち家主居者に対しては、現在の地価での坪単価を基準に補償金が支払われることになっている。(この金額ではニュータウン建設による地価の高騰後ではこの近辺に住居を建てるのは無理となる。)もちろん、この持ち家主居者も望めばニュータウンの分譲マンションに優先的に入居できる。
- 3) 立ち退き地区の商店は、優先的に新しくできるショッピングセンターにテナントとして出店すること。しかし、その場合、一定額のテナント料を支払わなければならない、ある程度の売上額を維持できている商店でないとショッピングセンターでの経営は難しい。ショッピングセンターに出店することを拒否した場合は、補償金がもらえるが、現在の地価が基準になっているため、十分な店をこの近くに建設するほどの額はもらえない。
- 4) 中小企業の移転先の工業団地は、現在の市の中心地からは車で25分ほどの所。ここは高速道路のインターチェンジのすぐそばで、輸送等は非常に便利になる。従業員の住宅を建設できる経済力を持っている企業であれば、別に問題はないであろうが、そこまでの設備が持てない企業は、従業員を通勤させるのに負担が強いられることになる。また、この工業団地周辺は高速道路のインターチェンジ周辺ということもあって、従業員住宅をつくっても、住環境に適しているかどうかは疑問である。
※つまり、商店と住居を立ち退き地区にもつ経営者は、ショッピングセンターに出店し、マンションに住むという場合とまったく別の場所で商売をするかのどちらかということになる。また、中小企業と住居を立ち退き地区にもつ経営者は工業団地に工場をもち、駅前のマンションに住むか、工場の近くの高速道路周辺に補償金で家を建てるかのどちらかになる。
- 5) 大手のショッピングセンターは独自の流通網をもっており、非常に安い価格で商品を販売できる。また品ぞろえも豊富で、今までニッコリ市にあった商店で扱われていたもののほとんどは新しいショッピングセンターで扱われる。公設市場や立ち退き地区に入らなかった商店はそのまま残されることになるが、経営は今のままでは非常に難しくなるであろう。何かその商店の独自性を出すアイデアが必要となる。
- 6) マンションができると、他の地域からの移住者が増え、大手スーパーの従業員も大勢流入してくることが考えられる。税金は増収し、市の設備も充実させられるだろう。
- 7) 新しい大手スーパーができると、雇用が促進され、市の住人の経済も活性化するだろう。
- 8) この計画が実施されると、ニッコリ市の土地価格は急上昇するだろう。山の手さくら台の住人や地主は資産が倍増することまちがいなし。
- 9) 美術館や博物館、コンサートホールなどの文化施設やスポーツ施設や公園などの公共施設もつくられるそう。
- 10) 新しく道路もつくられ、これまでの入り組んだ細い道路は、幅の広いまっすぐな道路に作り替えられることになる。汚い路地は整理され、すっきりとしたまちになるだろう。
- 11) 外国人労働者(主にブラジル人)が多く住んでいたアパートは立ち退きをする必要はなかったが、彼らの多くが勤めていた中小企業は工業団地へ移ることになった。車を持たない彼らにとっては、非常に不便なことになる。

資料③

- (1) 文化施設をつくり、市の文化水準を高めるまちづくりを考える。
- (2) 市の持つ文化財を残し、ニッコリ市民の持つ文化・伝統を大切に、下町のよさを残す情緒のあるまちづくりを考える。
- (3) 若者の集うまち、活気のあるまちづくりを考え、サービス産業の進出を積極的に受け入れる。
- (4) 工場等は市の周辺部に移転し、住宅ブロックと工業ブロックの住み分けをはかる。
- (5) 福祉の充実を第一に、誰にもやさしいまちづくりを考える。
- (6) 経済の活性化のため、企業等の誘致を積極的にはかる。
- (7) 自然環境を大切に、緑豊かなまちづくりを考える。
- (8) 今までまちを支えてきた産業、商業の存続を第一とするまちづくりを考える。
- (9) 何もしなくてよい。

ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシート I

()年 ()組 氏名()

1) 最初のランキングの結果を書いてください。

2) 話し合いの後のランキングを書いてください。

この過程で、あなたの考えに変化がありましたか。
もしあれば書いてください。

3) このアクティビティについての感想を書いてください。

アクティビティ2 「それぞれの立場で考えよう」

●概要

ここでは、生徒がニッコリ市の住民の立場に立って都市開発を考える（ロールプレイ）。

ニッコリ市民である9つの立場を設定し、生徒はこの立場になりきるにより、この開発が住民に与える影響について考える。

●ねらい

役割体験をすることで、客観的に都市開発について考えることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑤「それぞれの意見を考えよう」(P119) (全員分)

資料④「ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシート」(P115) (全員分)

●所要時間

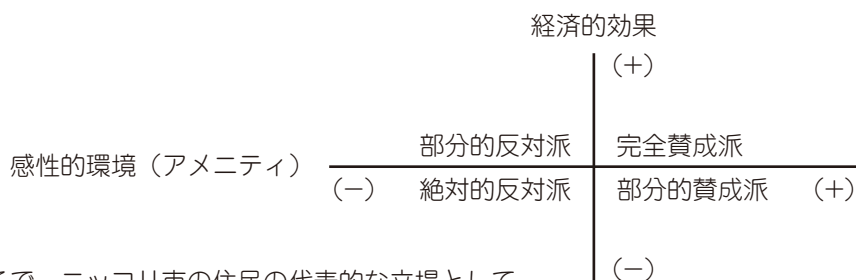
45～50分

●用語の解説

宮本憲一（1989）『環境経済学』岩波書店、P.368によると、「アメニティとは、市場価格では評価できないものをふくむ生活環境であり、自然、歴史的文化財、街並み、風景、地域文化、コミュニティの連帯、人情、地域的公共サービス（教育、医療、福祉、犯罪防止など）、交通の便利さなどを内容としている。」と定義されている。アメニティは一般的には「快適環境」という訳語があてられる場合が多いが、ここでは田村 明著（2000）『まちづくりの発想』岩波新書、pp.28～32ページに基づき、「感性的環境」という訳語をあてる。

●解説

都市開発が住民に与える影響を経済的效果を縦軸に、感性的環境（アメニティ）を横軸にとり、4つのブロックに分類すると、各ブロック毎の住民の都市開発に対する意見は下の図のようになる。



そこで、ニッコリ市の住民の代表的な立場として、

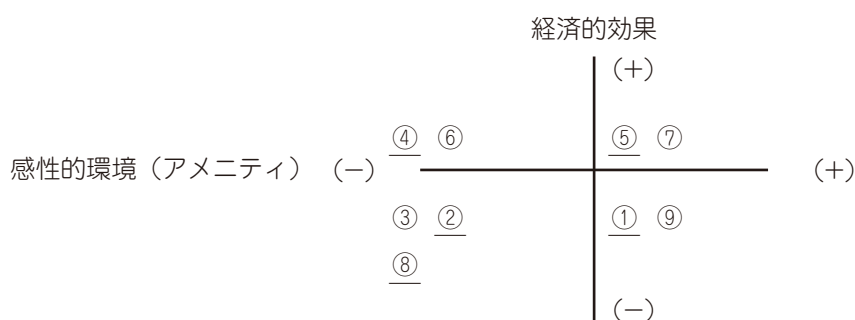
- ①あなたは立ち退き地区の中小企業に勤める立ち退き地区のアパートの住人
- ②あなたは立ち退き地区の中小企業に勤めブラジル人で、立ち退き地区外のアパートの住人
- ③あなたは立ち退き地区の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人
- ④あなたは立ち退き地区外の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人
- ⑤あなたは山の手 さくら台の住人で、立ち退き地区の中小企業の経営者

- ⑥あなたは新しく進出してくる大手スーパーに勤めようと考えている立ち退き地区外の住人
- ⑦あなたは山の手 さくら台の住人で、隣町の企業に勤めている
- ⑧あなたは公設市場で店を出している店主。住居も立ち退き地区ではない
- ⑨あなたは立ち退き地区内に商店と住居をもっている

の9つに設定し、そのそれぞれの立場を、

- 経済的効果 (+) 感性的環境 (+)
- 経済的効果 (+) 感性的環境 (-)
- 経済的効果 (-) 感性的環境 (+)
- 経済的効果 (-) 感性的環境 (-)

の4つのブロックに分類すると、①～⑨の立場は以下のように分類されよう。



この各ブロックからそれぞれ1つないし2つのアクターを選び出し、ロールプレイをすることによって、この再開発計画に対する考えが、住民のおかれている状況によって大きく異なることを知り、地域社会における相互依存関係について考えることができる。

● すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点 (ポイント)
<p>1. 全員に資料⑤を配付する。生徒は5人のグループに分かれ、資料⑤にある9つの立場のうちの①・②・④・⑤・⑧の5つの役割を担当し、その立場になりきる。</p> <p>2. 同じ立場に立つ生徒でグループを作り、その立場に立った時の『ニッコリ駅周辺再開発計画』について、資料⑤の問い a) ~ c) をもとに話し合う。</p>	<p>ここであげた5つは一例であって、この5つの選び方については、生徒が共感しやすいものを選ぶのが望ましい。</p> <p>このとき、調整役として、市の役人の立場をもう一人加えてもよい。(その場合は1グループ6人となる。)</p> <p>そのことにより、生徒により深くそれぞれの立場を理解させることができる。</p> <p>同じ役割になる生徒でグループになり、その役割になりきるための相談を行い、その役割に対する理解を深める。</p>

<p>3. それぞれの立場について理解が深まったところで、元のグループ（1. のグループ）にもどり、その役割になりきって、アクティビティ1で行ったランキングをグループで行う（ロールプレイによるグループランキング）。</p> <p>4. そのランキングの結果をワークシート（資料④の2）に記入し、グループ毎に、ランキングの結果とランキングをする過程でどのような話し合いがなされたかについて全体に報告する。</p> <p>その後、最初のランキングとロールプレイをしてのランキングの結果とを比較して、自分の中でどのような変化があったかを振り返り、ワークシート（資料④）の「あなたの考えに変化はありましたか。もしあれば書いてください」の欄に記入する。</p>	<p>ロールプレイによるグループランキングを行う際は、安易に答えを見つけ出そうとするのではなく、合意形成ができるまで話しあうことを大切にす。ランキングが完成しなくても、意見を出し合い、考えを共有する時間をしっかりとるように促す。</p> <p>この時、多数決で決めるのではなく、合意形成ができるまで話し合う。時間内に結論がでなくてもよい。その話し合いのプロセスを重視する。</p> <p>変化がないという生徒がいる場合も考えられる。その時は、「じっくりと自分がどのように考えていたかを見つめてみよう。」や「自分の気持ちの変化を見つめてみよう」と促す。</p>
<p>ふり振り返り</p> <p>自分の中にどのような変化があったか。どんなことに気づいたかについて考え、ワークシート（資料④）の3）に記入し、その内容をグループ内で共有する。</p>	<p>一人で、自分の考え方の変化について熟考した上で、ワークシートに記入するように促す。</p>

{それぞれの意見を考えよう}

あなたは（ 番号 ）。あなたの立場から、以下のそれぞれの立場に立って、次の3つの項目について考えなさい。

- (a) この計画はあなたにとって良いものかどうか考えなさい。その理由は何ですか。
- (b) またこの計画によってどのような影響が考えられますか。
- (c) あなたはどのようになるのが一番いいと考えますか。

- ① 立ち退き地区の中小企業に勤める立ち退き地区のアパートの住人です。
- ② 立ち退き地区の中小企業に勤めるブラジル人で、立ち退き地区外のアパートの住人です。
- ③ 立ち退き地区の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人です。
- ④ 立ち退き地区外の中小企業に勤めるニッコリ住宅の住人です。
- ⑤ 山の手 さくら台の住人で、立ち退き地区の中小企業の経営者です。
- ⑥ 新しく進出してくる大手スーパーに勤めようと考えている立ち退き地区外の住人です。
- ⑦ 山の手 さくら台の住人で、隣町の企業に勤めています。
- ⑧ 公設市場で店を出している店主です。住居も立ち退き地区ではありません。
- ⑨ 立ち退き地区内に商店と住居をもっています。

アクティビティ3 「トラブル発生」

●概要

自分が被害者にならないために日系ブラジル人に対して暴力を振るってしまった主人公が迫られる葛藤を通して、自己が属する集団の意義について考え、自己の役割と責任を自覚したうえでとるべき行動とはいかなるものかについて考える。この單元では、この街で起こったトラブルを地域全体の問題としてとらえ、その解決の方法を探りながら「共生」が可能なコミュニティのあり方について考える。

●ねらい

都市住民の間に起こる異文化間のトラブルを想定し、そこにある社会的ジレンマの解決の方法を探ることにより、互いを認めあえる関係のあり方について考え、問題解決能力の育成を図る。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑥（P121）（全員分）

ふせん（グループ毎に数十枚）

模造紙（グループに1枚）

●所要時間

50分程度

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 資料⑥「場面設定シート（トラブルの発生）」を全員に配付する。 生徒は各自で資料⑥を読み、登場人物『啓介』のおかれている状況を把握し、『啓介』の直面する葛藤を理解する。</p> <p>2. 4～5人程度のグループに分かれ、『啓介』が直面する問題を解決するための方法を話し合う。 ①この時の啓介の気持ちをできるだけたくさんふせんに書き出し、なぜそう思ったのかについてその理由をグループで共有する。 ②これからどうすれば良いのかについて、グループで話しあい、具体的な解決方法を考え、模造紙にまとめ、グループ毎に発表する。</p>	<p>このとき、自分のことを理解してもらえない、自己疎外の状況におかれている子どもが現実にそういった場面に直面した時に相手のことをどこまで理解できるか、どこまで歩み寄ろうとするかということについて、生徒に突き詰めて考えさせることが大切である。</p>
<p>ふり返り 自分ごととして考えることができているかについて個人で考え、グループ内で「気づいたこと、感じたこと」を共有する。</p>	<p>個人で考える時間を数分間とる。</p>

《場面設定シート トラブルの発生》

ニッコリ中学校に啓介と孝夫という小さい頃から仲のよかった二人の生徒がいた。

ある時、啓介の住んでいるアパートに日系ブラジル人の家族が入居してきた。その家族には、カルロスという男の子がおり、ニッコリ中学校に通うようになった。

日本語が話せないため店で買い物ができなくて困っているカルロスを見てから、啓介はカルロスに興味を持った。再び店で困っているカルロスを見かけた啓介はカルロスに思い切って声をかけた。そしてそのことをきっかけに啓介はカルロスと話をするようになった。会えば啓介はカルロスに少しずつ日本語を教えてやった。啓介は言葉の分からないカルロスに日本語を教えることは面白いと思った。学校での成績は悪く、自分に自信を持てなかった啓介は教える立場に立てたことがなんだかうれしかった。でも、啓介の母親はそのことをあまり良くは思っていなかった。大きな声で訳のわからない言葉でしゃべり、近所付き合いの悪いカルロス一家のことをあまりよくは思っていなかったのだ。啓介にも「あまりあの子と付き合うんじゃないよ。」と言っていた。

前々から勉強に自信が持てなかった啓介は、テストを受けるのがいやで学校を休んでしまった。一度学校をズル休みしてしまうと、次の日も学校に行くのがいやになり、また次の日も学校を休んでしまった。そんな日がだんだん多くなり、啓介は学校に行かずまちをぶらぶらするようになっていった。

孝夫の父親はニッコリ市内の中小企業に勤めていたが、病弱で仕事は休みがちだった。近年たくさんの日系ブラジル人がニッコリ市内の中小企業で働くようになり、労働者の不足に悩まされなくなった工場の経営者は、孝夫の父親を欠勤を理由にクビにしてしまった。父親は「ブラジル人に職を奪われた」と嘆いた。母親が仕事にでることで何とか家計を支えていたが、孝夫の家庭は暗く沈んだ。

孝夫の家の近くの公園ではよく日系ブラジル人たちが年齢を問わず集まって、ラジカセで大きな音で音楽をかけ、料理を持ち寄りお酒を飲んだりしながら、楽しそうに歌ったり踊ったりして騒いでいた。

孝夫は憎々しげにその様子を見ていた。近所に住む人たちも、周りにゴミをまき散らしながら大声で歌ったり踊ったりしながら騒いでいる日系ブラジル人たちのことを快くは思っていなかった。

孝夫の気持ちは次第にすさんでいき、学校に行っても授業妨害をしたりしてまともに授業を受けることはなかった。教師から注意を受けることが多くなった孝夫はとうとう学校へ行かなくなってしまった。

彼の周囲には数人の仲間がいた。孝夫と啓介は他の仲間と学校にも行かず、毎日ぶらぶらと過ごしていた。ある日、学校に行かなくなった彼らが駅裏の公園にたむろしていた時、偶然カルロスが前を通りかかった。学校に行っても言葉もわからず授業についていけないカルロスは学校を休みがちになっていたのだ。

前々からブラジル人のことをよく思っていなかった孝夫は仲間「あいつをやってしまおう。」と誘った。そして「おい！ブラジル人。どうしてお前は日本にいるんだ。ブラジルに帰れ。」と言ってカルロスに殴りかかった。そして仲間にもやるように大声で言った。

啓介はカルロスの顔を見て少し躊躇したが、「ここで手を出さなければ、今度は自分がみんなからやられてしまう。ましてブラジル人と友達だということが孝夫に知られると何をされるかわからない。」と考え、仲間と共にカルロスを殴った。倒れているカルロスをそのままにして、彼らはその場を立ち去った。

その後、カルロスは通りがかった人に助けられ、病院に運ばれたが、意識不明の重体になってしまった。家に帰った啓介は「ゴメンナサイ。ゴメンナサイ。」と言いながら一方的に殴られ続けていたカルロスのことを思い出した。

さて、啓介はこの時、どうすればよかったのでしょうか？

アクティビティ 4 「コミュニティは誰のもの？」

●概要

そこに住む人々が気持ちよく生活できるようになるかを話し合い、そのための具体的なアクションプランを考える。

●ねらい

それぞれの役割体験をすることで、多様な考え方があることを知り、多様性について考えることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑦「人物設定シート」(P123～124)：グループに1セット(予めA)～E)まで切り離してセットにしておく)

●所要時間

50分程度

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点(ポイント)
<ol style="list-style-type: none">1. 5人のグループに分かれる。2. 各グループに資料⑦「人物設定シート」のA)～E)を1セットずつ配付する。3. グループ内で、各自A)～E)のうちの一枚をとり、熟読し、自分になりきる人物の考えや役割を理解する。4. 各自が自分の役割(ロール)になりきって、どうすれば問題が解決されるかについて、グループで話しあう。	<p>最初に、自分の役割が理解できるように、同じ役割の生徒同士でグループになり、自分の役割・考え方を理解する。</p> <p>時間内に結論が出なくても良い。役割になりきって、積極的に話し合いに参加するように促す。</p>
<p>ふり返り 生徒は自分に戻って、他者の意見をどのように受け止めたか、どんな気持ちになったかについて具体的に話しあう。</p>	<p>自分ごととして考えるように促す。</p>

《人物設定シート》

A) 町工場経営者の代表：年齢 56才

いまや日系ブラジル人はこのニッコリ市の産業を支える大切な存在です。彼らはよく働いてくれる。日本人なら、「キツイ」とか「賃金が安い」とすぐに文句を言うが、彼らはそんなことは言わない。夜勤もいくらでもしてくれる。おまけに賃金も安くてすむ。彼らのおかげで、会社はたいへん儲かるようになった。ニッコリ市の工場の景気が良くなれば、それはまち全体の利益にも繋がる。ケンカをすること、排除することばかり考えるのではなく、共に生きる社会のあり方を考えましょう。これは学校だけの問題ではない。まち全体の問題として考えるべきだ。

B) ニッコリ中学校PTA代表：年齢 60才

日系ブラジル人たちがやってきてからまちの雰囲気は随分悪くなったような気がする。私達がいくら月に一度のゴミ拾いをしても、そんなことには参加もしないで、公園でゴミを散らかし、大騒ぎをしているのは許せない。公園は子どもたちのものであるはずなのに、日系ブラジル人が集まっている公園で子どもを安心して遊ばせることなんてできない。そんなブラジル人の態度に腹を立てて、今回の事件は起こったのかもしれない。事件を起こした少年の親はブラジル人のために仕事をクビになったという話を聞いた。そんなブラジル人を雇う企業に問題があるのでは…。

C) 自治会会長：年齢 45才

こんな問題がいつか起きるだろうと考えていた。新しい人が入ってくると必ずこのような問題は起きるものだ。特に外国からの移住者などが入ってくるからこんなことになるのだ。今度は日本人の子ども達が被害者になることだって考えられる。今のうちに何とかしなくては…。家庭でも危険な駅裏には行かないように言う。我々も夜の見回りをするなど対策を講じるべきだと考えるべきだ。

D) 日系ブラジル人の代理人として会議に参加したNGO職員：年齢 34才

ロナウトさんは日本語が苦手なため、今回の会議にはロナウトさんの代理として参加した。

今回大怪我をさせられたのは、ロナウトさんの友達の子供。この地域に住むブラジル人の憤りは大きく、なんとかその気持ちを伝えて欲しいと言われてやってきた。

この地域に住む人々のブラジル人に対する扱いは冷たく、子ども達は学校でたびたびいじめの対象となっていた。親たちも近所の日本人と親しくすることもなく、いつも疎外感を味わいながら、細々と生活していた。

ブラジル人の家族が公園に集まって、ブラジルの歌を歌ったりするのがささやかな楽しみだった。日本人にとっては派手に見える公園での集まりも、ブラジル人にとっては日常なことであって、特別に騒いでいるという意識はない。それは彼らの文化なんです。そのことを理解してあげて欲しい。また、ゴミを散らかしているのは良くないことだが、ブラジルでは日常的に行われていること。でもいけないことはいけないこととして、近所に住む日本人も無視するのではなく、どんなルールがあるのかきちんと教えてあげて欲しい。共にこの日本で暮らしていけるように。

E) 被害者・加害者の中学生が通っている中学校の生活指導担当教師

今まで学校内において、日系ブラジル人の子に対してのいじめは確かにあった。また学力の低い子どもが自分をのけ者にされていると感じていたことも事実だろう。

そういったことに対する各担任の取り組みの報告は聞いてはいるが、どれも根本的な解決にはいってはいなかった。学校内での取り組みだけでは解決できないとの判断から、各地域での懇談会を密にしようと職員会議で決定された矢先の出来事であった。

それが、まさかこんな事件になろうとは…。

これから生徒や教師がそれぞれ自分の問題としてこの事件に向き合い、一人一人が自分の問題としてしっかりと考えていかなければならないと考えている。そして、様々な学習活動を通してもっと子どもたち一人一人が自信を持ち、人に思いやりの心もてるような取り組みを実施していかなければならないと考えている。平和学習や人権学習にも力を入れていかなければならない。

何か具体的な方法についてみなさんからもご意見をお聞かせ頂きたい。

アクティビティ5 「ニッコリ市議会」

●概要

ここでは住民のなかから市議会議員を選出し、選ばれた市議会議員による市議会が開かれ、ニッコリ駅周辺再開発について審議する。住民である市民はその議会を傍聴し、自分たちの意見をまとめる。議会はその住民である生徒の意見を参考に最終案をまとめるというシミュレーションである。

●ねらい

このことにより、生徒は都市開発が市議会で、どのように取り上げられ、そのように具体化していくのを知り、また議会における政策決定に際し、住民の意見がどのように反映されるか、また、何が重視され、何が黙殺されるかを考えることができる。

そして、このように議会を擬似的に体験する過程で、現実の社会における社会正義の在り方について考察し、問題解決に向けての方法を模索する。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

資料⑧「選挙演説シート」(P127～129) (1セット/予め(A)～(G)まで切り離しておく)

ワークシートⅡ「ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシートⅡ」(P130) (全員分)

●所要時間

50分程度

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点(ポイント)
<p>1. クラスの中で、あらかじめ7人の立候補者を選び、資料⑧「選挙演説シート」(A)～(G)のカードを、それぞれのカードを一人に一枚ずつ各自に渡し、それぞれの主張を理解しておくように伝える。</p> <p>そして、その7人の立候補者は選挙演説のシートに書かれた台詞をもとに全員の前で選挙演説をする。</p> <p>2. 演説を聞いた住民役の生徒は、自分の意見が最も反映されそうな4～5名の市会議員を選び、投票し、その後「誰に投票したか」・「なぜその人に投票したか」について資料⑨(ワークシートⅡの1)に記入する。立候補者も投票するため、同様に資料⑨(ワークシートⅡの1)に記入する。</p>	<p>このシミュレーションをより活発な活動にするためには予め立候補者には根回しをしておく必要がある。ただし、他の生徒にはそのことは知られないように配慮すること。</p> <p>この時、生徒は自分自身の言葉に置き換えて演説が行えることが望ましい。</p>

<p>3. 選出された市会議員は、ニッコリ駅周辺再開発計画について住民役である生徒全員の前で審議する。このとき、住民役の生徒の発言は一切許されない。途中、議会を一度中断し、住民役の生徒に「市議会に対して何か言っておきたいことはないか、要望はないか」を尋ね、住民役の生徒に対し意見を求める。市議会はその意見を聞いた上で最終案をまとめ、議長は住民役の生徒に審議の結果を発表し、その結果についての感想を資料⑨（ワークシートⅡの2）の欄に記入する。</p>	
<p>ふり返り 資料⑨（ワークシートⅡの3）の欄に記入する。</p>	<p>この時、全員に一言ずつ、感想を発表することが望ましいが、時間の関係でできない場合は、グループに分かれ、グループ内で共有するか、数名に発表してもらってもよい。</p>

〔選挙演説シート〕

(A)私は、山の手 さくら台に住んでいる中小企業の経営者の〇〇〇〇です。私はこのニッコリ駅周辺再開発計画には全面的に賛成です。

まちにはゴミがあふれ、一見スラムのように見えるではないですか。このような環境では子どもの教育にも決していいとは言えません。先日起きた日系ブラジル人襲撃事件は記憶に新しいでしょう。あのような事件が起きる原因はこのまちにあるのではないのでしょうか。住民が誇りを持って生涯ここに住みたいと言えるようなまちづくりをすべきではないのでしょうか。このニッコリ駅周辺再開発計画が実施されれば、ニッコリ市は美しく生まれ変わり治安も良くなり、環境はどんどん良い方向へ進んで行くにちがいありません。笑顔の絶えない住みよいまちになることでしょう。

今、少々問題があろうとも、それを克服するための住民の努力がニッコリ市をよりよく変えていくのです。今のような昔の下町を思わせるような古い市の体質は一日も早く改善していかなくてはならないと思います。

これからの多文化共生社会を生きていく子ども達を育てるには今の環境は最悪です。

世界の流通・情報をうけいれ、すぐに対応できる市こそがこれからのまちといえるでしょう。これこそが子どもを育てるにふさわしいまちづくりとなるのです。今こそニッコリ市も生まれ変わる時なのです。

(B)私はこの市に住んでいる地主の〇〇〇〇です。ニッコリ駅周辺再開発計画には反対です。先祖代々受け継いできた大切な土地を、このような形で売ってしまうわけにはまいりません。今あるこの市の雰囲気そのものが、この土地に住む人々の風土が作りだしたニッコリ市の文化のそのものです。それを無きものにしてしまって、住民に市に対する愛着など湧くはずもありません。伝統とは守るためにあるものです。伝統をしっかりと守り、その上での発展を考えなければ、心のこもったまちづくりはできないのではないのでしょうか。外見の便利さに惑わされてはいけません。皆さんが愛することのできるまちづくりをしようではありませんか。

(C)私は今まで駅前で、商店を経営してきた〇〇〇〇です。この計画で私の所は立ち退かなくてはならなくなりました。もちろん今まで一生懸命育て上げてきた店をたたんで、別の場所に移るのは、身を裂かれるような気さえますが、それは私の個人的な感情であって、市全体のことを考えると、このニッコリ駅周辺再開発計画に賛成せざるを得ないと私は考えております。

この市における高齢化は深刻なものであり、若者は次々と便利なまちへ出て行っているのが現状です。今のままこの市の商店・企業を経営していても、後を継ぐ者もなく廃れていくのは眼に見えているではありませんか。私は、今こそ決断すべき時だと確信し、このニッコリ駅周辺再開発計画を実行にうつすために市議会議員に立候補しました

(D)私はニッコリ住宅の住人の代表としてこの選挙にでました〇〇〇〇です。皆さんは、差別というものがどういう状況から生み出されるかをご存知ですか。

経済的な格差・環境の格差など、大きな差異が生じると、そこから新たな差別が生み出されるのです。昔はニッコリ市は、人情味があり、思いやりの心に溢れ、人々の心と心の触れ合いを肌で感じることのできるまちでありました。しかし、たくさんの日系ブラジル人が住むようになったためにあのような事件が起きてしまったのです。

その上この再開発計画が実施されると私達の生活はどうなると思いますか。他の地域からもっと多くの人を受け入れなくてはならなくなるのですよ。まちに何の愛着も持たないたくさんの人たちが流れ込んで来るのです。それに住民の間の経済的な格差も広がることでしょう。ニュータウンは格差を広げ、新たな差別を生みだし、ニッコリ市を殺伐とした無機質なまちに変えてしまうことでしょう。ニュータウンなど作る必要などないのです。今のニッコリ市を住みよい町にしていく方法をみんなで考えましょう。

(E)皆さんはニッコリニュータウンができると、先日あったような襲撃事件は起きないようになると思いますか。きっとニュータウンができると日系ブラジル人の人たちの生活は今以上に厳しいものになるでしょう。誰が彼らの仕事を確保してやるというのですか。自分で仕事を見つけろというのですか。日本語も十分に話すこともできない彼らに。

この再開発が進むと、このまちには様々な格差が生みだされ人を見下すことが当たり前の、人の心を持たないまちに成り果ててしまうことでしょう。そんなまちで、未来を担う子どもたちを育てたいと思われませんか。

経済優先の競争社会を基本とするこの日本で、かろうじて、住民が共に暮らせるまちを守ってきたのが、このニッコリ市です。

「人権擁護のまち ニッコリ市」をまちづくりの基本精神に据え、このまちのよさを永遠に守り続けようではありませんか。

(F) 私は公設市場で店を出している〇〇〇〇です。私は商店街を中心にした新しいまちづくりを提案します。私が言う商店街とは新しい商店街を造るというのではなく、これまであった商店街を見直し、地域に密着した商店街にしようということなのです。

これまで私達は若者をいかに商店街に呼び込むかということに躍起になってきました。しかし、このニッコリ市での高齢化率は20%を越えています。この現実をふまえた上で、新しい商店街のあり方を提案します。私達の公設市場と周辺の商店が協力して、高齢者の方を対象とした「お得意様カード」を発行します。入会金や会費は一切不要のこのカードを使うと各加盟店舗で割引価格での販売やくじ引きなどいろいろなサービスをうけることができます。

また、このカードのICチップにはそのカードの持ち主の健康医療情報も入れておき、ニッコリ市内のどの病院でもその情報を参考に受診できるようにします。

これは一つの提案です。ニュータウンを建設するより、今のまちをどうすればもっと暮らしやすいまちにできるかを考えなければならないのではないのでしょうか。

みんなでアイデアを出し合って高齢者にやさしいまちづくりを考えようではありませんか。

(G)私はこのまちで機械製造の工場を経営してきました。みなさんご存じの通りこのまちは機械金属・メリヤス・印刷・日用雑貨などの生活用品を生産する中小企業がたくさんあります。ニッコリ市は中小企業によって支えられてきたと言っても過言ではありません。

その中小企業を排除するのではなく、中小企業と行政と市民とで新しいまちづくりしようではありませんか。

我々はこれまで目先の利益ばかりを追い求めてきました。でもそれではニッコリ市の環境改善はできません。それぞれの企業がそれぞれの利益を追うのではなく、それぞれの企業の技術を持ち寄り、市民のためになるものを作るのです。例えば生ゴミ処理機や雨水貯蔵タンク・車椅子や自助具など福祉機器等です。それもその費用の一部を行政が負担することで廉価なものができるのです。そしてここで製造された生ゴミ処理機などを設置した家にも市から補助金だしまししょう。

生ゴミ処理機や雨水タンクや福祉機器を販売したり設置するのも私たち住民の手です。

みんなのためになるものをみんなで作ることで、安くて便利で人にも環境にもやさしいものができるのです。

みんなが元気になれるニッコリ市にしようではありませんか。

ニッコリ駅周辺再開発計画ワークシートⅡ

()年 ()組 氏名()

1) 誰に投票しようと思いましたが。

その理由は何ですか。

2) この議会の結論について、あなたはどのように思いましたか。

3) 感想を書いてください。

アクティビティ6「ふり返り」

●概要

この学習プログラムを通しての、自らの学びと、自分の考え方の変化についてふり返る。

●ねらい

生徒自身が学びを自己評価し、自身の考え方の変容をふり返ることで、メタ認知能力を高めることができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

ニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅠ（全員分）

ニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅡ（全員分）

資料⑩「ふり返りワークシート」（P132）（全員分）

●所要時間

30～40分程度

●すすめ方

1. ニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅠ・Ⅱを各自に返却する。
2. 4～5人のグループに分かれ、自分の書いたニッコリ駅周辺再開発計画 ワークシートⅠ・Ⅱを見て、これまでの自分の気づきや学びをふり返り、グループ内で共有する。
3. 資料⑩「ふり返りワークシート」を全員に配付し、その問いに従って各自で記入する。
この時、「ふり返りシート」に記載した内容はグループ内で共有することを予め生徒には伝えておく。
2. 「ふり返りワークシート」に書いた内容をグループで共有する。

ニッコリ駅周辺開発計画 ふり返しシート

()年 ()組 氏名()

1) この授業を通しての自らの学びを、A (+)～D (-) の6段階で評価してください。

そう考えた理由を書いてください。

2) この授業を通して、自分の考えにどんな変化がありましたか。感想も含めて書いてください。

学習過程

シミュレーション教材『ニッコリ駅周辺再開発計画』の学習過程は次のようになる。

	内容構成	ねらい	培われる力	学習活動(手法)	
小单元1 『あなたの望む 都市開発』	現状を知る	状況の把握	知る力・感じる力・ 理解する力	情報の読解	問題の発見
	都市開発のあり方 を考える	意志決定	思考力・判断力・ 決定する力	ダイヤモンド ランキング ワークシート	
小单元2 『それぞれの立 場で考えよう』	多様な地域住民に 対し開発が及ぼす 影響を考える	多様性から生 じる価値観の 認識	気づく力・共感す る力・表現力	ロールプレイ	解決の方法を探る
	地域住民の異質性 と多様性を許容し ながらまとまりを 保つ都市開発のあ り方考える	合意形成 意志決定	思考力・判断力・ 決定する力 メタ認知能力	ロールプレイに よる ランキング ディスカッション ワークシート	
小单元3 『トラブル発生』	この街で起こった トラブルを地域全 体の問題としてと らえ、その解決の 方法を探りながら 「共生」が可能なコ ミュニティのあり 方について考える	問題解決能力 の育成	思考力・判断力・ メタ認知能力	モラルジレンマ学 習 問題解決のための プランニング	解決の方法を探る
小单元4 『コミュニティ は誰のもの?』	共生社会を実現す るためのコミュニ ティーづくりを考 える	社会的ジレン マの解決	思考力・共感する 力・ポジティブに 考える力・実践す る力	資料分析 ディスカッション ワークシート	
小单元5 『ニッコリ市議 会』	議会に対する自ら の関わりについて 考える ①選挙にどのよう に関わるか ②議会をどう見る か。 どう関わるか ③議会の議決案は 住民にどのような 影響を与えるか。	意志決定	参加する力・共感 する力・批判的に 見る力・決定する 力	ロールプレイ ディスカッション ワークシート	新たな問題の発見
小单元6 『振り返り』	振り返り 自らへの気づき	自己の変化の 認識 気づきの確認	自己の確立 メタ認知(問題解 決のプロセスの全 体を見通す力13)	ワークシート	次なる発想へ

生徒は「問題の発見」→「解決の方法を探る」→「新たな問題の発見」→「新たな発想へ」という学習過程をたどりながら、自らの生き方を考え、自らの可能性に気づいていく。そしてそこで培われた力は相互に関連しあいながら、より高い次元の自分（新たな自分）に向かって螺旋状に生徒の成長をうながしていく。そして最後の振り返りの中で生徒は自らの気づきを再発見し、その心の変化（成長）を再確認する。また、他者と気づきを分かち合うことにより、より深い気づきを得る者もいるだろう。

生徒はこの学習過程を通して「学び」とは知識を一方向的に伝達されるものではなく、他者との関係により自らの中にはぐまれていくものであることを実感することになる。そしてそのことが、本当の意味での民主主義を理解し具現化するための大きな力を育てることになるのである。つまり「学び」とは、他者との関わりを通して自己実現を図る力を自己の中に確立するその過程をいうのであり、シミュレーション教材はそれを体験するための有効な方法の一つであるといえる。

おわりに

「シミュレーション教材を実施するのは難しい」という教師の声をよく聞く。その理由として次のようなことがあげられる。

シミュレーション学習が効果を発揮するには、その前提として対象となる事象の正確な分析と把握が必要となる。対象となる事象の模擬的な演示が正確に行われていないと、その事象に関する生徒の追求・施行も意味の薄いものになってしまう。そのため、まずこの対象事象の分析と把握の段階において、教師の指導やチェックが適切に行われる必要があると考えられる。そしてその結果としてシミュレーション学習を実施するのは大変な労力と時間を費やさなければならないものと考えられ、効果的な学習法であるにもかかわらず、実践するのをためらう教師が多い。

しかし、私はこれまでの経験から、シミュレーション学習を行うためには、必ずしも周到な準備が必要であるとは考えない。もちろん、その事象について理解するためには、ある程度の知識は必要であり、生徒が十分な知識を持ちあわせていないのであれば事前学習は必要になる。しかしそのことにはそれほど時間と労力を費やす必要はないのではないかと。

私はこれまで、単元の導入としてシミュレーション学習を実施したことがたびたびある。そんなとき、その事象に対してほとんど基礎的な知識を持たない生徒が、自らの経験に基づき、想像力を発揮して、その状況を心情的に理解し、また自分たちがそれまで知らなかった様々な問題に気づいていた。そうしてそれらの問題に対して興味関心をもった生徒は、より理解を深めるための知識を積極的に得ようとし、またある生徒はそこで得た知識をもとに、問題解決の方法をも探ろうとしていたのである。

では、なぜ対象となる事象の正確な分析や把握が不十分な生徒でも、そのような気づきを持てたのだろうか。シミュレーション学習を実施する際に大切なことは、事前にその事象について正確に分析し把握するように指導することではない。そのシミュレーション学習が授業過程の中で整合性のある取り組みとして実施されているかどうかが大切なのである。そしてその上で、そのシミュレーション教材が扱う内容が、何らかの形で生徒の経験や日常と重なり合う部分がなければ効果的なものにはならない。

つまりシミュレーション教材が効果を発揮するには、生徒の身近な問題に題材を求めるか、一見生徒から遠く離れた問題（グローバル イシュー）を扱う場合でも、その中に共感できる内容を取り組みの中に織り込んでいくことが大切である。そしてその取り組みの中で生み出される「新たな発想」は次の「学び」へとつなげられていく。そのような「気づき・学び」と「新たな発想」の連続の中においてシミュレーション学習はより大きな効果を発揮するのである。

現在様々な場で、様々なシミュレーション教材が作り出されてきた。しかし、それをそのままの形で、脈絡もなく、目先の楽しさや目新しさを求めて安易に実践しても効果的な結果は得られない。目の前の生徒の日常に沿った形に作り直し、そこから得られた学びを次なる取り組みにつなげていく作業を繰り返す教師の工夫が何よりも大切なのである。

参考文献

- 1) 田村 明著(2000)『まちづくりの発想』岩波新書、28～32ページ
- 2) 開発教育協会 編集・発行(2012)『開発教育実践ハンドブック 参加型で世界を感じる 改訂版』
- 3) 宮本憲一著(1989)『環境経済学』岩波書店、
- 4) 加藤幸次・安藤輝次著(1999)『総合学習のためのポートフォリオ評価』黎明書房
- 5) 茂木喬著(1995)『新学力観に立つ中学校社会科公民の授業改善』明治図書